

第2章 基本方針の設定

1. 現基本計画について	23
2. 上位・関連計画	29
3. 基本方針の設定	31

第2章 基本方針の設定

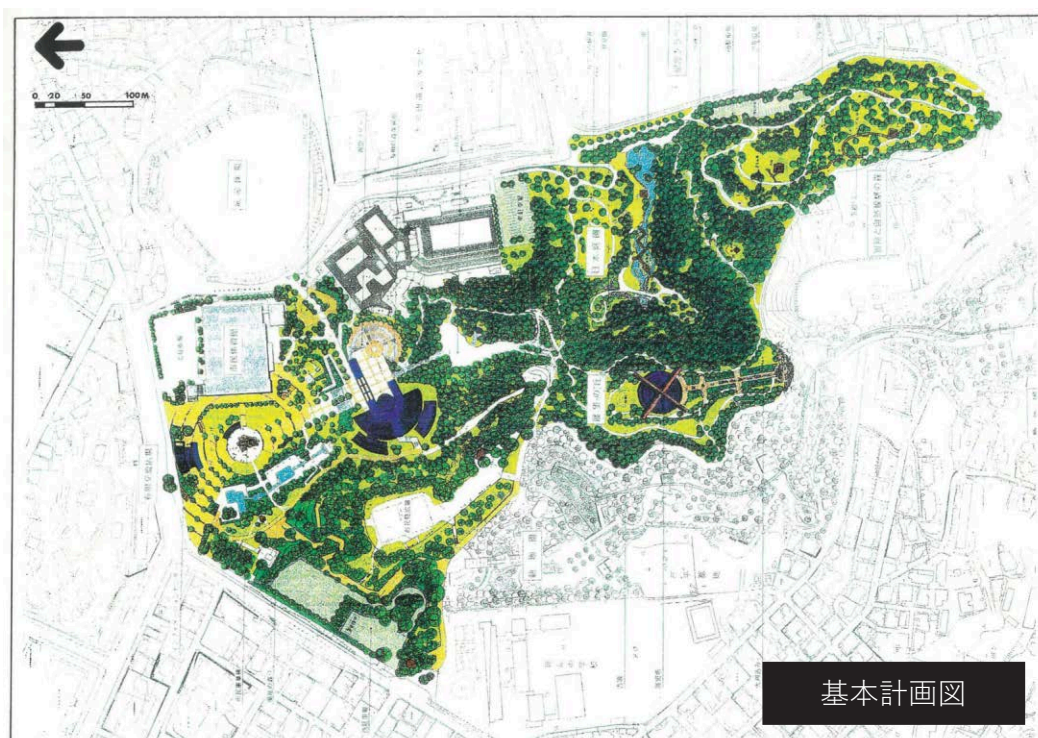
延命公園は、「延命公園基本計画・基本設計」（H1.3 策定）に基づいて整備が行われてきましたが、現在も整備されておらず、今後も整備の可能性が低い施設、あるいは、必要が生じて新たに整備された施設等があります。

そこで、基本方針を検討するにあたり、まずは、現基本計画の概要を整理したのち、現基本計画の達成状況や変更点、問題点等を整理し、子育てや健康増進、交流等の新たな市民ニーズにも対応した基本方針を検討します。

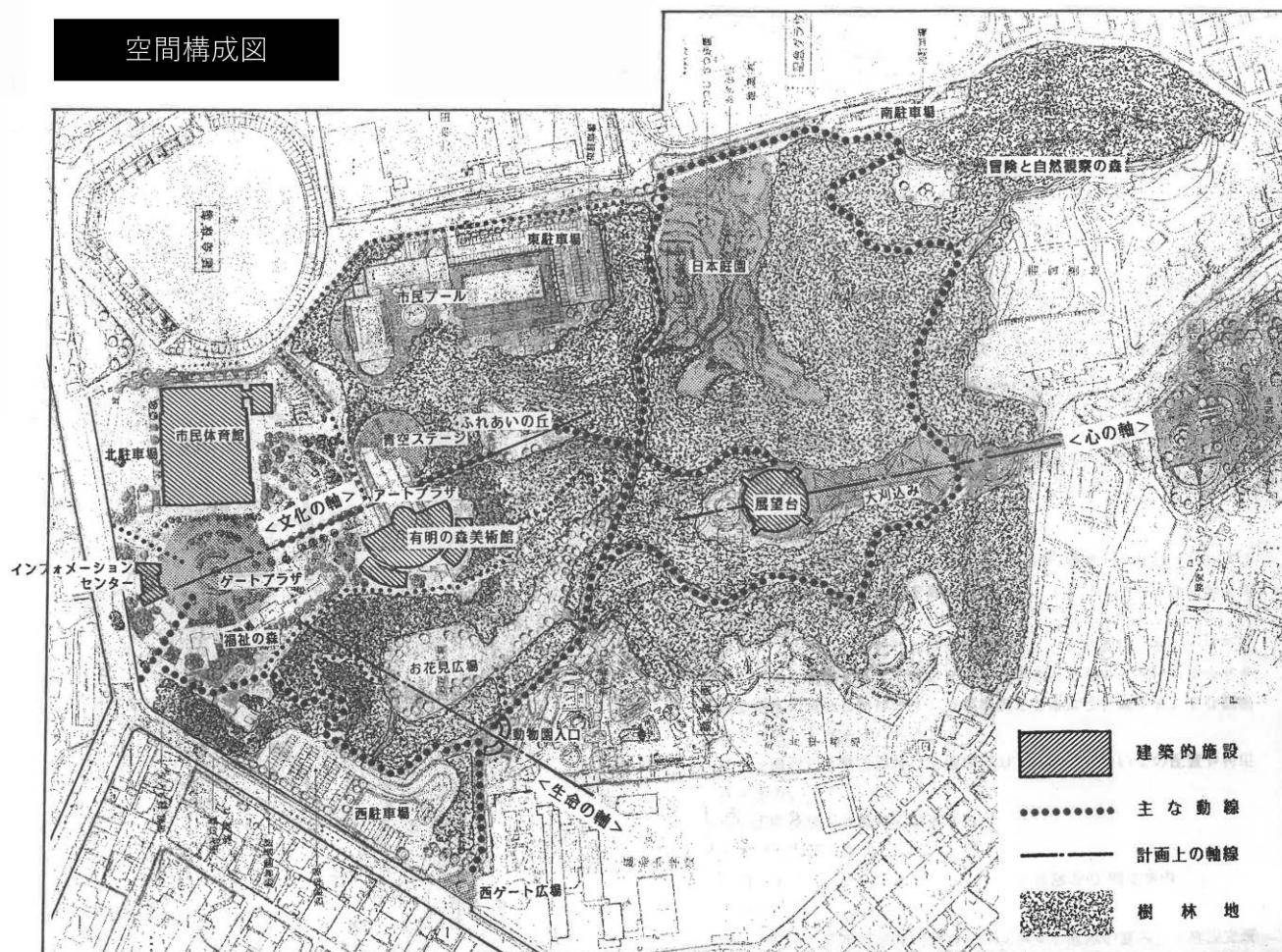
1. 現基本計画について

(1) 現基本計画の概要

現基本計画の概要は、以下の通りです。

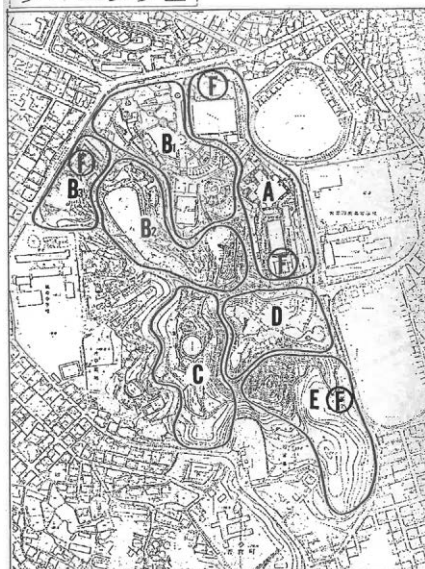


空間構成図



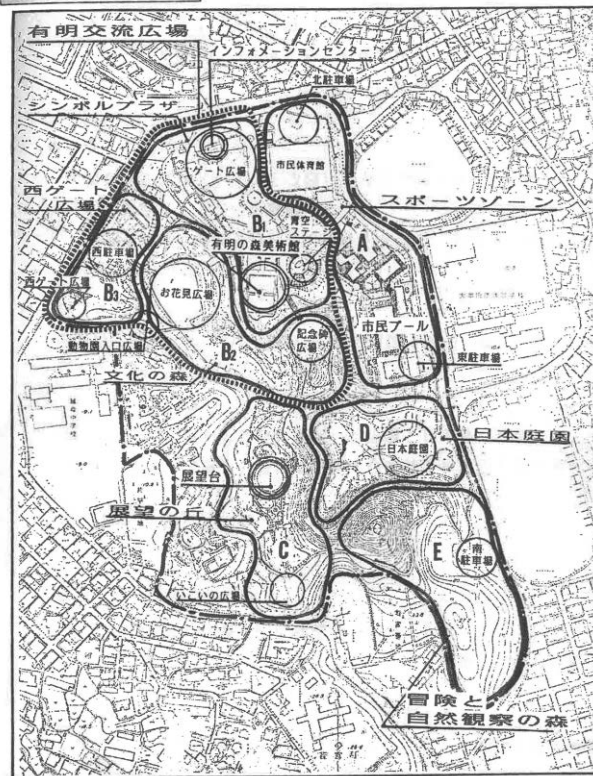
ゾーニング

ゾーニング図



ゾ ー ン	基 本 的 方 向	整 備 の 方 針
A スポーツゾーン	・体育館、プール等の既存施設の有効利用。	ポケットパークを配置するなど体育館回りを修景し、Bゾーンとの連続性をもたせる。
B 有明交流広場ゾーン	・有明交流広場として位置付け。 ・青年の家の複合的文化施設への転換。 ・西駐車の設置。 ・自然植生の保全。	B 1 <ゲートプラザ他> 公園の入口広場としてゲートプラザを設け、円形の広場、インフォメーションセンターを設置する。また、その周辺には有明の森美術館、青空ステージといった文化の拠点にふさわしい文化施設を配置する。 B 2 <お花見広場> 現在の講和広場をお花見広場とし、自然植生を保全しつつ様々なイベントに対応できる広場として改修する。 B 3 <西駐車場他> 歩車動線の錯綜を解消し、特に動物園利用者を対象とした駐車場・入口広場の整備を図る。
C 展望の丘ゾーン	・自然植生の保全。 ・展望台のランドマーク化。 ・展望台と園路の改修。	展望台は市の新しいランドマークとなるよう三角のフレームで覆い、フレームの中に展望デッキを巡らし、360°の展望を演出する。 展望台への園路は直線的でシンボリックなデザインとする。
D 日本庭園ゾーン	・老朽化した庭園の全面的な改修。	現況の地形や植生をできるだけ活用する。池・流れを改善し、野草園や湿性植物園を配置する。 園路は、木道や階段などで変化のある回遊性を演出する。
E 冒険と自然観察の森ゾーン	・自然植生の保全。 ・活用の多様化。	林間を縫うように園路を設置し、文学のみち、冒険のみち、自然観察のみち等のルートを設定する。
F 駐車場ゾーン	現在の不足分を補うために公園内4箇所に設置する。	北駐車場 ----- 市民体育館横、乗用車84台分（整備済み） 西駐車場 ----- 動物園入口、バス13台、乗用車73台分 南駐車場 ----- 日本庭園入口、乗用車40台分 東駐車場 ----- 市民プール横、乗用車120台分

施設配置図



A. スポーツゾーン

市民体育館

- ・中心市街地からの動線の軸線上に位置する市民体育館のファサードをできるだけ修景する。

市民プール

- ・老朽化しているため、改築の時期には適地を集約、移転し、新しい敷地活用を図る。その間暫定的に施設の改善を図る。

B. 有明交流広場

B-1. シンボルプラザ

ゲートプラザ

- ・中心市街地からの動線を埋める形で、ゲートプラザを配置する。
- ・緑と花の拠点であることを象徴し、公園の入口として、あるいは建物との一体感を高めるためにもゲート性を演出するような修景を行う。
- ・既存の大木や花壇、福祉の森の池流れを取り込んだ集いの広場とする。
- ・日常的にもボランティア活動や屋外での読書コーナーなどとして利用される。

インフォメーションセンター

公園のメインゲートとしての「案内」という機能上、及びゲートプラザと周辺建築物との一体感を高めるために、インフォメーションセンターを設置する。

ゲートプラザの中心近くにプラザに沿うように設置し、ゲートプラザのゲート性を強調するようなデザインとするとともに、ゲートプラザ全体が象徴性の高いわかりやすい空間構成となるよう計画する。主な機能として次のことがあげられる。

- ・延命公園内の主要施設及び公園周辺の主要施設についての配置や利用催物案内。
- ・大牟田市及び有明園地の観光案内。
- ・大牟田市の緑化推進のPR。
- ・有明の森美術館等におけるイベント、企画展等の開催案内。
(施設完成後)
- ・ディスプレイ広場等延命公園内の小スポット展示の案内。(施設完成後)

有明の森美術館

- ・展示室、野外彫刻展示場、工作工房、芸術文化情報コーナー、資料室、スタジオ、研究室等を備えた施設を有明の森美術館とする。
- ・丘陵部分にあるという設置場所の特性を活かした施設配置を考える。
- ・交流広場にふさわしい雰囲気のある喫茶・軽食コーナーを設置するほか、ミュージアム・ショップを設置し、従来のように、カタログや絵葉書だけの販売ではなく、美術書、グッドデザイン小物等も扱い、喫茶、ショッピング等を目的に交流広場に人が訪れるほどの魅力を持たせる。

青空ステージ

- ・現在ある野外ステージを改修して有明の森美術館と一体化した青空ステージに再整備する。
- ・施設としては規模よりもその個性的な内容、形態等を重視する。

B-2 文化の森

- ・自然植生を保全しつつ、平坦な広場や園路における修景を図る。

B-3 西ゲート広場

- ・動物園の入口に阿たる部分を西ゲート広場として整備する。
- ・歩行者の安全を考慮し、駐車場整備と合わせて歩行者空間を最大限確保する。

C. 展望の丘

- ・明るく展望の利く広場とし、展望台(配水池)を三角のフレームで覆い、本市の新しいランドマークとしてシンボル性を強調し、さらに新しく展望デッキをめぐる。
- ・展望台周辺は大刈込みと花壇で明かるく修景する。
- ・園路はシンボリックに直線の大階段で軸線を通し、特徴的な尾根線と展望台との一体性を高める。

D. 日本庭園

現在の日本庭園を再整備して内容の充実を図る。

- ・池は水循環システムを導入し、護岸、景石、滝口の改善を行い、日本庭園らしい落ち着いた、たたずまいを演出する。
- ・池沿には園路を巡らし、明るく樹林を開いてつつじ、さつき園、こけなども活かした湿性植物園などで植物に興味を持たせる庭の構成とする。
- ・園路は木道や階段などで変化を持たせ、中心に設置したあずま屋に結ぶ。
- ・道路側は見通しがきくよう造成を行い、切り通しとする。

E. 冒険と自然観察の森

公園南端の林地は自然の植生を活かした冒険と自然観察の場とする。

- ・自然の地形を活かし、変化のある連続した遊具施設を設置する。
- ・尾根上の地形に散歩路を巡らし、要所に文学碑や歌碑など、有明文学を紹介する文学の道に性格付ける。
- ・園路の一部は木製デッキで自然林地の保護と、歩行の変化を持たせた観察路をつくる。
- ・自然植生は郷土木としてその名前をネームプレートで紹介する。

F. その他

- ・北側は道路拡巾が予定されており、公園との整合性を持たせる。
- ・公園内3ヶ所に駐車場を拡充整備する。
北駐車場 ----- 市民体育館横、乗用車84台分（整備済み）
西駐車場 ----- 動物園入口、バス13台、乗用車73台分
南駐車場 ----- 日本庭園入口、乗用車40台分
東駐車場 ----- 市民プール横、乗用車120台分

基本方針

①大牟田市の新しい歴史を創造する 公園づくり

産業転換を進める大牟田にとって、延命公園の再整備は新たな歴史の出発点とも言え、現在の記念的な事業として**新しい文化創造の公園**とする。

②大牟田市の活性化を誘発する 公園づくり

延命公園整備は、新たな大牟田の活性化への可能性も大きく、**観光客の積極的な誘致や有明地域観光の拠点的な施設内容**へと変身を図る。

③自然と調和した公園づくり

延命公園の緑は、その文化的な雰囲気づくりを高める上で重要な構成要素である。失われつつある自然の感触を取り戻すような、**自然と一体となった公園**とする。

計画策定後の取り組み

平成 1 (1989) 年	「延命公園基本計画」策定 西駐車場、お花見広場整備
4 (1992) 年	園路整備（動物園出入り部分）
13 (2001) 年	延命球場改築
15 (2003) 年	青空ステージ整備（屋外音楽堂）
26 (2014) 年	フレンズピア跡地駐車場整備（園路整備あり）

(2)現基本計画の達成状況について

現計画時の公園施設と現在の整備状況を比較した達成状況は、以下の通りです。

現ゾーニング



ゾーン名	施設名	達成状況
A スポーツゾーン	市民体育館	整備済
	北駐車場	整備済
	こもれび広場	整備済
	延命プール	整備済
	東駐車場	未整備
B 有明交流広場 B1 シンボルプラザ	ゲートプラザ	未整備⇒広場
	インフォメーションセンター	未整備
	福祉の森	整備済
	青空ステージ	整備済
	有明の森美術館	未整備⇒中央駐車場
B2 文化の森	お花見広場	整備済
	記念碑広場	未整備⇒ふれあいの丘
B3 西ゲート広場	入口広場	整備済
	西駐車場	整備済
C 展望の丘ゾーン	展望の丘	未整備
D 日本庭園ゾーン	日本庭園	未整備
E 自然観察の森ゾーン	冒険と自然観察の森	未整備
	南駐車場	整備済

※現計画の“F 駐車場ゾーン”の駐車場 4 か所は、各ゾーンにて整理

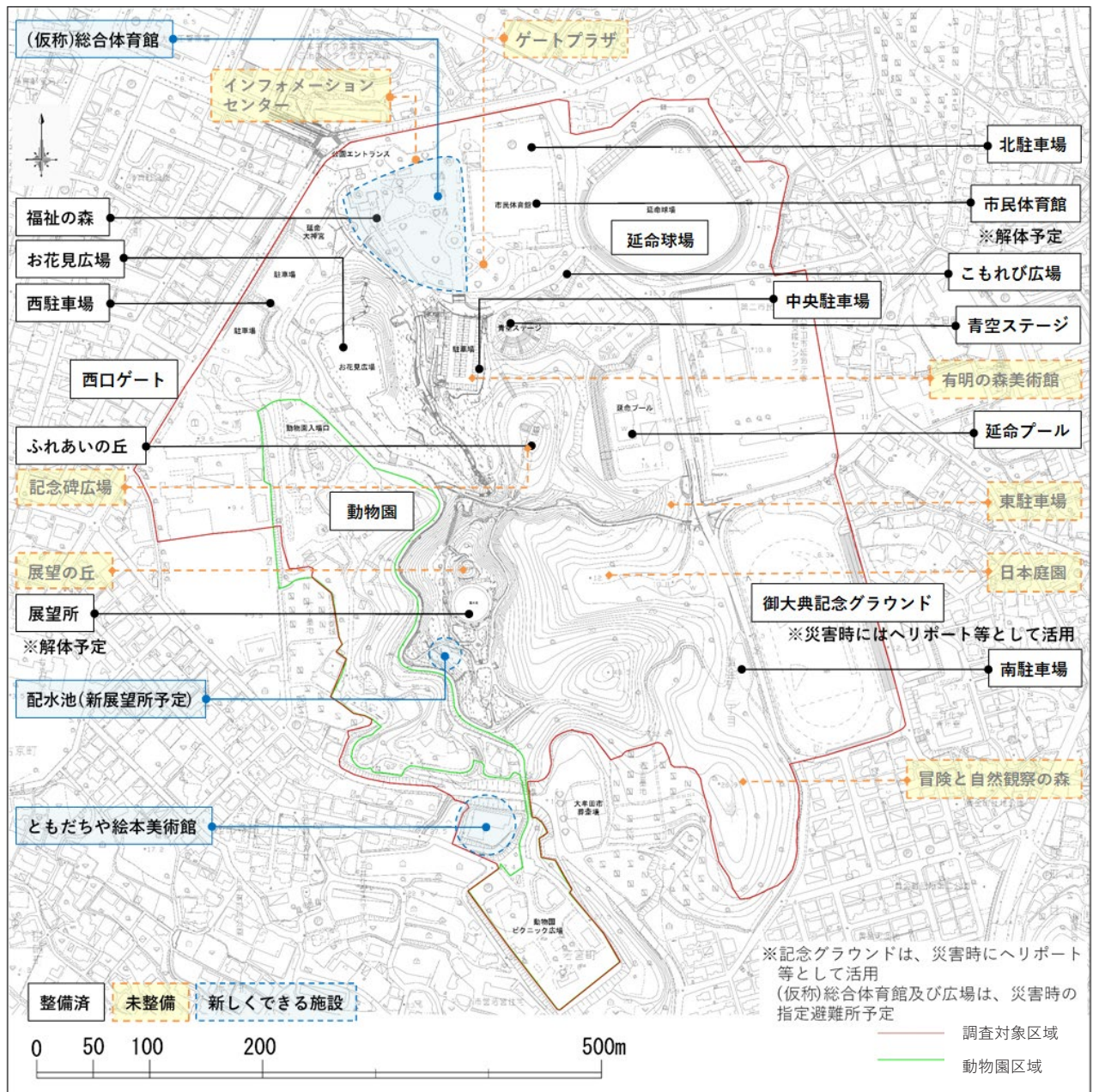


図 施設整備状況



▲公園エントランス



▲西駐車場出入口



▲動物園出入口

2. 上位・関連計画

(1) 上位・関連計画との関係

本計画と上位・関連計画との関係性について整理します。

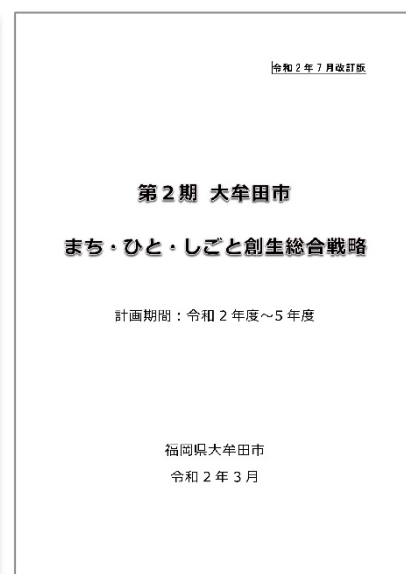
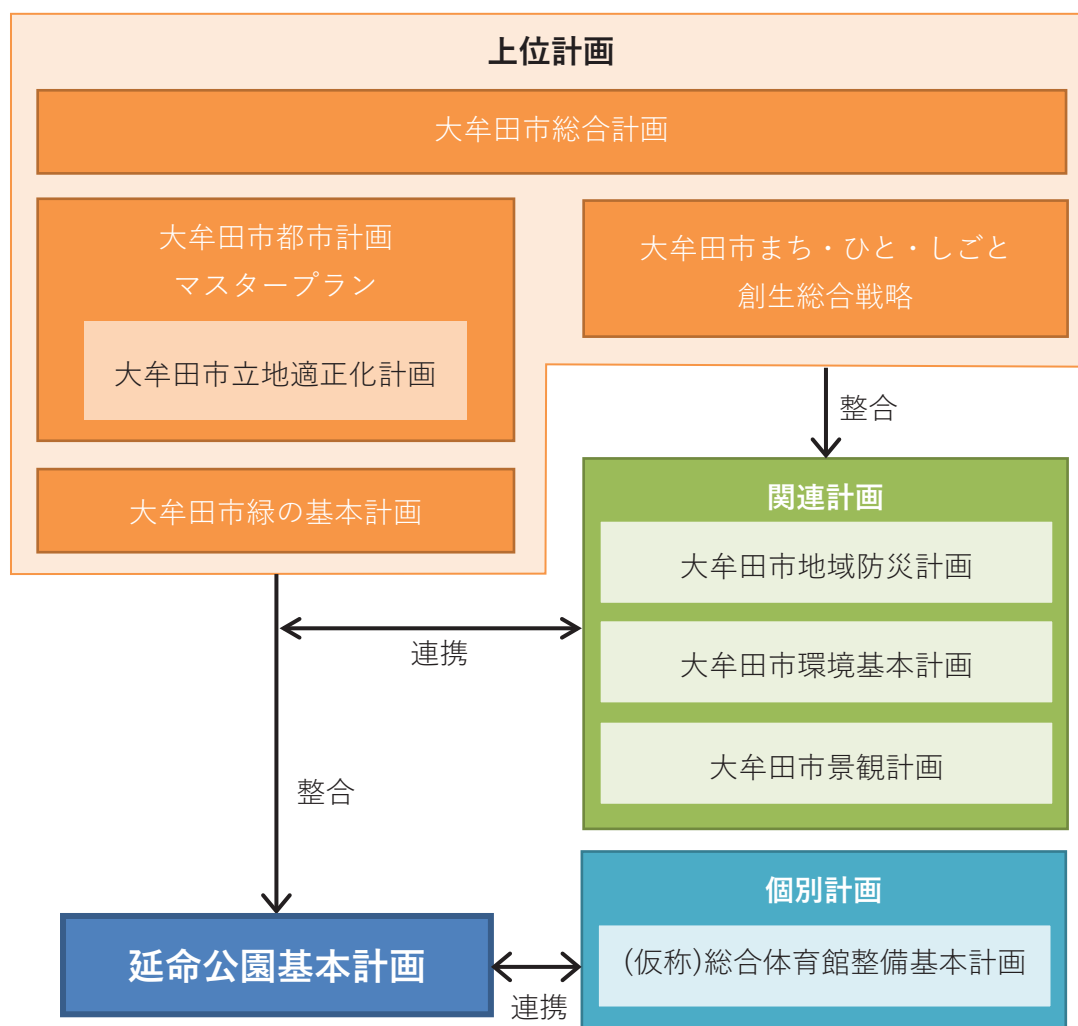


表 上位・関連計画における延命公園の位置づけ

位置づけ	名称	延命公園に求められる整備・機能	自然	文化	交流	活用	管理
上位	大牟田市まちづくり総合プラン(2020～2023)	・公園施設の安全性確保、長寿命化対策を踏まえた公園施設整備、遊具統廃合、公園機能再編による施設見直し、効率的な管理運営 ・ボランティア活動の促進等			●	●	●
上位	大牟田市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020～2023)	・憩いとスポーツ・レクリエーション活動の中心として一体的な活用 ・防災拠点としての役割も担える施設等を整備 ・動物園の必要とされる環境整備や絵本ギャラリーの整備 ・市民体育館など老朽化した施設への対応 ・延命配水池は景観に配慮しながら施設の更新と耐震化	●	●	●	●	●
上位	大牟田市都市計画マスタープラン(H31)	・レクリエーションゾーンの形成(市民のスポーツ・憩いの空間となるゾーンの形成) ・水と緑のネットワークの形成 ・市民ニーズを踏まえた公園整備 ・安全・安心で快適に利用できるよう整備・改善	●		●	●	●
上位	大牟田市緑の基本計画(H13)	・良好な自然環境を形成する緑地 ・拡張や市民のニーズに応じた施設の充実 ・都市災害、公害の防止・緩和に資する緑地 ・地域を特色づける景観としての緑地の保全・美観の維持向上 ・緑化重点地区の指定、風致地区の指定 ・一部未供用部分の整備(自然環境の保全と生物生息・生育環境の創造、ユニバーサルデザインの視点、避難地、ランドマーク、多様なレクリエーションに対応、園芸療法等が可能な施設)	●	●	●	●	●
関連	大牟田市地域防災計画(R元)	・延命公園「指定避難地」:延焼火災等からの一時的な避難場所、応援部隊や救援物資の拠点、仮設住宅建設候補地、平常時の防災訓練の場所。市民体育館「指定避難所」				●	
関連	大牟田市第2次環境基本計画2012～2021	・公園など、公共スペースの緑化 ・保存樹・保存林を指定し、良好な緑地を保全 ・貴重な動植物の生息・生育環境を保全	●				
関連	大牟田市景観計画(H25)	・考え方:自然要素を基調とし四季の変化を活かした景観 ・色彩:景観と調和させる施設デザイン、公園全体のデザインコントロール	●				
関連	大牟田市立地適正化計画(H30)	・レクリエーションゾーンとして、必要な関連施設の維持・充実	●	●	●	●	●
個別	(仮称)総合体育館整備基本計画(R2)	・スポーツ拠点機能の更なる充実 ・市民(特に高齢者)の健康づくり、体力づくりの拠点 ・運動、スポーツのきっかけづくりの発信地 ・多目的利用による新たな交流の場(障害者、市民活動) ・延命公園の魅力向上	●	●	●	●	●

(2)上位・関連計画から導かれる位置づけや役割

上位・関連計画から、延命公園は以下のような位置づけや役割が求められています。

- 豊かな自然環境を保全・継承し、市内の水と緑のネットワークの一翼としての役割
- 市民の憩いと多様なレクリエーションに対応できる施設の充実
- スポーツ拠点機能とにぎわい・交流機能の拡充
- 地域を特色づける景観の形成・美観の維持向上
- ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮したあらゆる人にやさしい整備
- 災害時における避難地・避難所としての機能

3. 基本方針の設定

現況把握・敷地分析

上位・関連計画から求められるもの

- ・豊かな自然環境を保全・継承し、市内の水と緑のネットワークの一翼としての役割
- ・市民の憩いと多様なレクリエーションに対応できる施設の充実
- ・スポーツ拠点機能とにぎわい・交流機能の拡充が求められる
- ・地域を特色づける景観の形成・美観の維持向上
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮したあらゆる人にやさしい整備
- ・災害時における避難地・避難所としての機能

周辺状況・公園現況

- ・市の中心部に豊かな緑として存在しているにも関わらず、管理や活用が不足している
- ・市民体育館、福祉の森や遊具、トイレの老朽化が進む
- ・丘陵地で階段での昇降のみの所もあり、ユニバーサルデザインやバリアフリーへの配慮
- ・豊かな自然は良い反面、暗さ・見通しの悪さにもつながる
- ・希少種を始めとした自然環境の保全

利用状況・利用者ニーズ

- ・各施設利用者は年間 41 万人に達するが、園内利用へ波及していない
- ・延命公園でしたいこと：園内散策・散歩、動物園、花見
- ・今後も活かす点（良い点）：自然豊か、桜、動物園
- ・欲しい施設：遊具、カフェ・レストラン等、トイレ、休憩所、多様な利用が可能な広場、周遊できる園路（散策路や各種運動コース）、アウトドア施設（キャンプ、BBQ 可能）
- ・改善すべき点：トイレ改修・整備、休憩所・飲食店整備、駐車場整備、樹木管理、遊具整備、全体が分かる案内板等
- ・その他：災害時にも役立つ広場整備、人気の動物園を活かしつつその他公園施設の魅力の向上と回遊性の向上

現状・問題点と課題

上位・関連計画

延命公園の位置づけ・役割の更新

- ・大牟田市は平成 2 年にスポーツ都市宣言を行うなど、スポーツを通して住みよいまちづくりを推進しており、本公園及び周辺エリアはスポーツ施設が集積したスポーツ・レクリエーションの中心的役割を果たしています。
- ・現計画において設定される本公園の役割は、「①文化・情報センター的機能の充実」「②市民レベルでの文化の活性化への対応」であり、また、基本方針は、「(1)大牟田の新しい歴史を創造する公園づくり」となっています。

①上位・関連計画において現在求められている延命公園の位置づけ・役割は、「レクリエーション」「地域の特色ある景観施設」「防災拠点」への更新が必要です。

現況

自然環境の保全・継承及び活用

- ・日本庭園や冒険と自然観察の森整備予定箇所の自然環境をはじめ、園内の自然環境の保全・継承と活用がなされていません。
- ②日本庭園の整備予定箇所には、絶滅危惧Ⅱ類に指定されているカスミサンショウウオが確認・保護されており、環境保全を前提とした整備を行う必要があります。

空間構成・ゾーニングの更新

- ・現計画において設定されている各種ゾーンのうち、「B 有明交流広場ゾーン」のお花見広場と西駐車場以外に関しては、交流の場としてあまり機能していません。
- ・「D 日本庭園ゾーン」「E 自然観察の森ゾーン」についても整備途中のままとされており、また、その地形や植生を活かした活用もされていません。

③現在計画されている施設配置を考慮し、新たなゾーニングの検討が必要です。

現況、上位・関連計画

施設の配置・デザインの見直し

- ・計画はしたものの整備が進まなかった、あるいは必要が生じて置き換わった施設等により、市内中心部のまとまった緑である公園が一体的な空間になっていません。
- ・回遊性が乏しく、動物園等の施設利用者がその施設自体の利用に留まっています。
- ④全体を回遊できるよう各施設の魅力向上と周遊できる園路の整備等が必要です。
- ・ユニバーサルデザインに配慮されていないため、利用者や利用範囲が限定されています。
- ⑤ユニバーサルデザインに配慮した施設整備が必要です。

新たな視点

利用者ニーズ

利用対象者・ニーズへの対応

- ・人口減少・少子高齢化、社会環境の変化等により、公園の利用者層や公園に対するニーズが変化していますが、ニーズに対応できていません。
- ⑥本業務におけるワークショップやアンケート調査結果からも、利用者ニーズが遊びや園内散策だけでなく、運動・活動、自然観察やイベント実施といった広範囲なものとなっていることから、ニーズに対応した空間構成や施設整備が必要です。

上位・関連計画

災害への対応

- ・災害が頻発する現在、公園は避難地としての役割が求められています。
- ⑦延命公園は「指定避難地」となっており、災害時の避難場所として、あるいは、応援部隊や救援物資の拠点等としての公園整備が必要です。（※園内に建替え計画中の市民体育館は、「指定避難所」）

基本方針の設定

延命公園の立地特性、これまでの整備状況、これから延命公園周辺で進められる事業、市民ニーズ等を踏まえ、延命公園が持つストック効果を最大限に引き出すために、基本方針を改定します。

①誰もが安心・安全で快適に利用できる公園づくり

ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮し、災害等の有事に対応できる安心・安全な公園づくりとともに、憩いやレクリエーションの場として多様な使い方が可能な公園づくりを行います

- ①延命公園の位置づけ・役割である「レクリエーション」「地域の特色ある景観施設」「防災拠点」への更新
- ⑤ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した施設整備
- ⑦災害への対応

②交流拠点として賑わいを生み出す公園づくり

公園を回遊したくなるような各施設の魅力向上を図り、公園内の各施設及び周辺文化施設が連携し、市内外の多様な来園者が自由に交流することで大牟田の賑わいを生み出す公園づくりを行います

- ③現在計画されている施設配置を考慮したゾーニング見直し
- ④施設の魅力向上と回遊できる一体的な空間整備

③都市の自然を生かし引き継ぐ公園づくり

様々な生きものが生息する豊かな自然環境を生かし、引き継ぐための公園づくりを行うとともに、環境保全を学ぶ場としての機能を合わせもつ豊かな自然環境を生かし・繋ぎ・活用する公園づくりを行います

- ②園内の自然環境の保全・継承と活用に向けた、環境保全を前提とした整備

整備における 7 つの視点

1. 憩いとレクリエーション施設の充実
2. ユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した施設整備
3. 防災拠点としての機能向上
4. 文化・スポーツ等施設の充実
5. 公園内を回遊したくなる施設整備及びリニューアル
6. 多世代の健康増進と利用促進
7. 自然環境の保全と活用

